

(5)健康・福祉・平和・人権 平成31年3月末日現在

件名	要旨	市の考え方	受付日	回答日	担当部署
ラポールひらかたの駐車場について	ラポールひらかたを以前から利用しています。隣接して計画されている総合文化施設建設にあたり、駐車場面積がカットされる図面を広報ひらかたで見ましたが、もう少し具体的に説明してください。	現在、ラポールひらかた(枚方市立総合福祉会館)でご利用いただいている地上の駐車場は、総合文化施設等整備事業が実施されるまでの期間限定で、利便性向上の観点から、臨時駐車場として敷地を活用してきたものですが、(仮称)総合文化芸術センターの建設に関連する整備工事の着手に伴い、平成30年7月2日(月曜日)から閉鎖する予定です。 また、地下の駐車場につきましては、台数に限りがあることから、車以外の移動手段が困難な障害者等の専用駐車場とさせていただきます。 なお、地下駐車場の運営方法の変更に伴い、駐車場に管理員を配置するとともに、周辺有料パーキング情報を提供するなど、ご利用の皆様にも混乱を来さないよう努めてまいります。ラポールひらかたをご利用の皆様には、大変ご迷惑をおかけしますが、公共交通機関のご利用などをご検討くださいますようお願いいたします。	2018/4/2	2018/4/20	福祉総務課
新会館建設によるラポールひらかたへの影響について	ラポールひらかた駐車場の工事が始まるようで、ラポールの施設を利用している人への影響を考えています。改めて、新会館も建設されるのでしょうか。	平成30年7月2日から閉鎖する地上の駐車場については、総合文化施設等整備事業が実施されるまでの期間限定で、その敷地を臨時駐車場として活用してきたものです。地下の駐車場については、台数に限りがあることから、車以外での移動が困難な障害者等の専用駐車場とさせていただきます。また、平成30年度中に予定している館内の空調改修工事につきましては、施設全体の運営を考慮し、できる限り支障をきたさないように計画しており、各階フロアごとに閉鎖しながら進めてまいります。 (仮称)枚方市総合文化芸術センターにつきましては、本市における文化芸術活動の拠点施設であるとともに、枚方市駅周辺の賑わいと魅力を創り出すための集客施設として整備します。 なお、ラポールひらかた(枚方市立総合福祉会館)は、(仮称)枚方市総合文化芸術センターの建設後も、存続いたします。	2018/5/30	2018/6/13	福祉総務課 文化振興課
医療費の助成について	枚方市の医療費の助成は、中学3年生までですが、他市では高校3年生まで助成があります。枚方市も高校3年生まで医療費を助成していただくよう検討していただきたいです。	子ども医療費助成の対象年齢の拡充については、重要な施策であると認識しておりますが、財政負担も大きく、現時点においては困難であることから、新たな子育て世帯への支援の取り組みとして、子どもが多い家庭の医療費の負担を軽減する制度を、平成30年7月診療分から開始いたします。 子ども医療費助成対象者が複数いる世帯を対象とし、これまで月の自己負担上限額は1人あたり2500円でしたが、1世帯あたり2500円に軽減し、その世帯内の対象者全員の自己負担額を合計して月2500円を超えた場合、その差額分を自動返還いたします。ご不明な点などありましたら、担当部署までお問い合わせください。	2018/5/30	2018/6/25	医療助成課
乳幼児健診について	乳幼児健診の時間が午後になっていますが、子どもが一番眠い時間帯で待ち時間も長いです。健診を午前中にしていただければ、お母さん達は助かります。よろしく願います。	乳幼児健康診査として指定している時間については、通常、お子様が午睡している時間帯となっており、待ち時間も長いことから、保護者の方々にはご苦勞をおかけしております。 乳幼児健康診査については、午前に実施することが望ましいところですが、医師を確保する見通しが見つらず、改善することは困難な状況です。現在、健診の時間帯においては、待ち時間を短縮できるよう従事スタッフの人数調整や、待ち時間を利用した保育士による絵本の読み聞かせ、手遊び等の紹介を実施しているところです。 いただきましたご意見を踏まえ、スムーズに健診を終えられるよう、今後も工夫を重ね、待ち時間を緩和するよう努めてまいります。	2018/5/31	2018/6/22	保健センター
高齢者の交通費補助について	高齢者の交通費補助は、ICカードになってからは悪化しているように感じています。他市ではバス会社と連携し半額の所もありますが、枚方市はなぜできないのでしょうか。	高齢者への交通費の助成については、平成28年度までご利用いただいていた当該カードが、平成29年度中に発売・利用終了することとなったため、事業を継続することが困難となりました。そのため、予算の範囲内で実施可能な内容を検討した結果、経過的な措置として、2年間に限りJRでも利用できる交通系ICカードを活用した助成を行うことといたしました。 なお、平成31年度以降の高齢者への交通費の助成については、対象者へのアンケート結果を参考に外出支援策を検討してまいります。	2018/5/22	2018/7/6	長寿社会総務課
ラポールひらかた内の喫茶店従業員の就労保障と障害者施設への外注について	ラポールひらかたが改修工事に入るため、館内の喫茶で働く障害者の方の仕事がなくなると聞きましたが、市から何の保障もないのでしょうか。また、障害者施設に対し、市が支払っている外注費用も少ないのではないですか。	ラポールひらかた(枚方市立総合福祉会館)における空調改修工事については、休館を避け、各階フロアを段階的に閉鎖するなど、施設運営を考慮し進めてまいります。 1階フロアの「喫茶コーナー」については、最長で1ヶ月程度の工事期間を予定しております。市においては、「喫茶コーナー」で就労されている方に対し、工事期間中の就労の斡旋はできかねますが、ご心配な点や困り事などについては、担当部署でご相談いただくことができます。 枚方市障害者就労施設等からの物品等の調達については、平成26年3月に方針を策定し、障害者就労施設等からの調達拡大に取り組んでいます。また、枚方市内障害者就労施設等商品カタログの活用や、他市事例も参考にしながら、今後も授産製品の発注増加につながるよう努めてまいります。	2018/5/22	2018/7/6	福祉総務課 障害福祉室
ヘルプマークの配布方法について	障害福祉室にヘルプマークを取りに行った際、発券機のどのボタンを押せばいいかわからず職員に尋ねたところ、職員の態度が悪く、嫌な思いをしました。発券機にヘルプマーク用のボタンを作るなど、わかりやすい表示をしてください。	窓口における相談や各種申請手続きなど、すべての業務において、発券機による受付を行い、番号順に対応させていただいておりますが、受付業務が多岐にわたることから、発券機に業務ごとのボタンを新たに設置することは困難な状況です。しかしながら、今回のご意見を踏まえ、発券機のボタンを押す位置が明確になるよう表示することとしました。 また、来庁された方に対し、親切・丁寧な説明をするよう努めてまいります。	2018/6/25	2018/7/6	障害福祉室

重症心身障害者への施策について	現在、重症心身障害者のグループホームはありません。なぜ、重症心身障害者が、生涯にわたり生活ができるケアホームがないのでしょうか。グループホーム等で暮らせるように、重点的に検討・施策の立案等を行い、市から全国に発信されますようお願いいたします。	現在、本市には重症心身障害者に特化したグループホームはございませんが、重症心身障害者の方がグループホームを利用されております。 グループホーム(共同生活援助)の運営の安定化を図り、利用される方の福祉の増進に寄与することを目的に当該事業者に対し運営費等の補助を行い、また、グループホーム世話人講座を開催することにより、人材の確保・養成にも取り組んでいるところです。 障害者の重度化・高齢化を見据え、地域生活を支援する機能、地域の体制作り等の集約等を行う「地域生活支援拠点」について、平成32年度中の整備に向けて取り組んでおります。 今後は、重症心身障害者の方がこれまで以上にグループホームなどを利用しやすくなるよう、国・府などに働きかけてまいります。	2018/7/9	2018/8/22	障害福祉室
障害者の仕事・生活について	障害を持つ息子は、仕事に就いて社会の厳しさを経験しました。親はいつまでも子を守ることはできません。障害者だからできる仕事もあると思います。もっと障害者の仕事を増やしてください。	本市では、地域の障害者支援機関(ハローワーク枚方、枚方市障害者就業・生活支援センター等)と協力し、就労支援に関する取り組みとして、例年2月頃、障害のある方を対象に合同就職面接会を開催しております。 また、生活上の悩みや、就労に向けた障害福祉サービスの利用などについては、障害福祉室の地区担当ケースワーカーまでご相談いただきますようお願いいたします。 今後も、障害がある方の就労に関する支援等について、継続して検討し取り組んでまいります。	2018/7/17	2018/8/31	障害福祉室
骨髄提供に対する支援について	骨髄バンクにドナー登録しました。骨髄の提供は善意で行なわれますが、提供までには多くの時間と労力が必要です。枚方市でも骨髄移植ドナーに対する補償制度の創設を強く希望します。	骨髄移植ドナーに対する補償・支援制度につきましては、平成28年6月定例会月議会で厚生労働省に対する「骨髄移植ドナーに対する支援の充実を求める意見書」が可決されるなど、多くのドナーが安心して骨髄等を提供できる仕組みづくりが求められていることは認識しております。 今後は、先行して制度を導入している他自治体の取り組み状況や、運用状況について調査・研究を進めるとともに、骨髄バンク推進事業の啓発に努めてまいります。	2018/8/28	2018/9/14	健康総務課 保健予防課
子どもの健診について	午後の健診は、昼寝の時間帯で子どもの機嫌が悪く困ります。午前中から受けられるようにしてください。また、1～2時間かかる健診は子どもの負担になるので、日程を増やすなど1日の受診人数を減らしてほしいです。	乳幼児健康診査として指定している時間につきましては、通常、お子様が午睡している時間となっており、待ち時間も長いことから、保護者の方々にはご苦労をおかけしております。 乳幼児健康診査については、午前の実施や現行以上の回数にすることが望ましいところですが、医師を確保する見通しがつかず、改善することは困難な状況です。現在、健診の時間帯においては待ち時間を短縮できるよう従事スタッフの人数調整や、待ち時間を利用した保育士による絵本の読み聞かせ、手遊び等の紹介を行っているところです。 いただきましたご意見を踏まえ、スムーズに健診を終えられるよう、今後も工夫を重ね、待ち時間を緩和するよう努めてまいります。	2018/10/15	2018/10/29	保健センター
障がい者手帳のカバー(青色)について	障がい者手帳の交付が大阪府から枚方市になったと聞き、更新に合わせて、青い手帳カバーをいただきました。大阪府では「障がい者」の表示でしたが、枚方市では、「がい」が漢字の「害」となっていました。なぜ、漢字を使っているのでしょうか。	本市では、「害」だけを「ひらがな」にした場合、視覚障害者の方が使用される音声読み上げソフトによっては、「しょうがい」と読まないものがあることや、「障」にも差し障りという意味があること、また、法律・政省令・団体名称などは漢字表記であり、ひらがなと混在し煩雑となるなどの理由から、「障害」と表記しております。 表記につきましては、今後も国や他自治体の動向などを注視してまいります。 なお、「障害」、「障がい」の表記にかかわらず、障害のある方への理解を深めるとともに、自立支援や社会参加に係る取り組みを推進してまいります。	2018/10/26	2018/11/15	障害福祉室
パートナーシップ制度の導入について	枚方市では現在、LGBTに関する施策の一つ、パートナーシップ制度が認められていないとの事です。婚姻関係までの制度を求めています。少なくとも公的に認められたパートナーであるというパートナーシップ制度の導入は、早急に必要であると考えています。	本市では、平成22年4月施行の枚方市男女共同参画推進条例において、「多様な性のあり方を尊重し、多様な性のあり方を理由とする人権侵害を行ってはならない」と定め、平成28年度に策定した「第3次枚方市男女共同参画計画」に基づき、性の多様性への理解促進に取り組んでおります。 「パートナーシップ制度」につきましては、現在、全国で9市区の自治体で導入しており、本市においても、早急に取り組むべき課題であると認識しております。平成31年度早期の制度開始に向けて、先行自治体の調査を行うとともに、庁内体制の整備、当事者の皆様からの意見聴取も行っていきたいと考えております。 今後も、当事者の皆様だけでなく、だれもが多様性を認め合い、いきいきと暮らせる人権尊重のまちづくりに向け取り組みを進めてまいります。	2018/12/10	2018/12/28	人権政策室
認知症による事故について	他市では、認知症の方が事故を起こし賠償請求された場合に、市が賠償金を支給する制度を作ったということです。枚方市も実施を検討していただきたいです。	本市におきましても、少子高齢化に伴い、今後、認知症疾患をお持ちの方の増加が予想されることから、ご本人及びご家族への支援、認知症サポーターの養成、相談窓口の充実など、様々な側面から認知症施策を進めております。 また、認知症高齢者等を早期に発見し、ご家族へ連絡できる体制づくりのさらなる推進を図るため、平成31年1月からご家族への支援を目的とした新たな取り組みを開始する予定です。 今後は、認知症高齢者に関する様々な課題の解決策を検討するにあたり、いただいたご提案も参考にさせていただきます。	2018/12/10	2018/12/27	地域包括ケア推進課

LGBT相談窓口の設置と同性パートナーシップ条例の導入について	だれもが生きやすい社会を作るために、LGBTの人達の相談窓口設置と、同性パートナーシップ条例の導入を要望いたします。 また、「市長への提言」が住所・名前・連絡先を明記することになっていることは、意見を提出する際に大きなハードルとなっています。	「パートナーシップ制度」につきましては、早急に取り組むべき課題であると認識しており、平成31年度早期の制度開始に向けて、先行自治体の調査を行うとともに、庁内体制の整備、当事者の皆様からの意見聴取も行っていきたくと考えております。 また、LGBT等性的マイノリティ専門相談窓口につきましても、制度開始にあたり必要不可欠であると考えていることから、併せて設置を予定しており、今後も当事者の皆様だけでなく、だれもが多様性を認め合い、いきいきと暮らせる人権尊重のまちづくりに向け取り組みを進めてまいります。 なお、「市長への提言」を行う際の「名前・住所・電話番号」の明記につきましては、内容について詳細をお聞きすることや、回答を行う必要性から必須の入力項目としております。 いただきましたご意見を踏まえ、今後、必須設定の有無について検討してまいります。	2018/12/14	2018/12/28	人権政策室 広聴相談課
子どもの医療費について	他市では、子どもの医療費負担が200円と聞きました。枚方市は500円ですが、負担額を軽減するよう改善してください。	子どもの医療費助成につきましては、大阪府の「市町村乳幼児医療費助成事業」に基づき、府内の市町村では、一律1日500円限度として月2日までの本人負担とし、府の補助対象年齢は小学校就学前までとなっていますが、本市では、対象年齢を上乗せして「中学校3年生」まで実施しています。 また、受給者1人当たり月最大2500円までの本人負担上限であるところ、府内では本市のみの新たな制度として、平成30年7月診療分から、子ども医療・ひとり親家庭医療の受給者が複数人いる世帯において、1世帯当たりの受給者本人負担の合計が月最大2500円までとする世帯単位での負担上限額を設け、子育て世帯の医療費の負担軽減に努めているところです。	2019/1/29	2019/2/8	医療助成課
市立ひらかた病院の対応について	息子と私の体調が悪く、市立ひらかた病院の救急外来を受診しました。インフルエンザに罹患している可能性が高かったのですが、息子は受診拒否をされました。さらに、私へのインフルエンザの検査の仕方がずさんで、医師に指摘すると別の看護師が検査をやり直すことになり、2回目の結果は陽性でした。今回の対応について、病院への憤りと不信感を感じずにはられません。対応した職員の見解と不要な検査費用の返還をお願いします。	「小児救急診療」につきましては、地域完結型となっており、1次診療、すなわち初療担当医療機関は「枚方休日急病診療所」が担当し、本院は、入院が必要となった場合において担当することとされております。 今回の検査につきましては、ご本人様からのご希望も踏まえつつ、最終的には医師の判断により2回目の検査を実施したのですが、インフルエンザの鼻汁による検査は、確定診断を行うものではなく医師の診断を補助するための検査であり、1回目の検査から一定時間が経過した2回目の検査において、陽性となる可能性も十分に考えられるものです。 また、胸部のレントゲン検査につきましては、当日、インフルエンザより更に重篤な肺炎等の呼吸器疾患を除外するために必要な検査であることを、医師からご説明した上で実施したものであり、今回の診療において有用かつ必要な検査であったと認識しております。 しかしながら、本院の位置付けや診療内容等を、ご本人様にしっかりとお伝えすることができず、ご不審な思い、ご心配等をお掛けしてしまった事につきましては、説明不足であったと感じております。今後も、患者の皆様のお気持ちに寄り添い、あたたかく思いやりのある診療に努めてまいります。	2019/2/14	2019/3/6	総務課